

武家屋敷を火災から守るために

伝建地区で火災を想定し訓練

12月5日、角館伝統的建造物群保存地区で火災を想定した放水訓練が行われました。同訓練は、仙北市が主催、角館北地域自主防災会が共催で角館伝建群保存地区の町並みを守る会の会員や角館消防署員など約30人が参加しました。

訓練に先がけて角館榊細工伝承館で行われた講習会では、市職員からエンジンポンプや放水銃、屋外消火栓などの操作手順について説明が行われたほか、角館消防署から火災警報器の取り扱いについて講話がありました。

終了後は、岩橋家に場所を移して放水訓練を開始。同家から出火したという想定で、各会員を周辺に設置さ



参加した会員は、放水までの手順を確認しながら訓練を行っていました。

れている放水銃と屋外消火栓それぞれに配置、手際よく準備し屋根に向かって一斉に放水しました。同自主防災会の石橋正則会長は「防災設備が増設になったので、訓練を通して場所や操作手順を確認することができた。今後も火災に備えて訓練を続けていきたい」と話しました。

カンデッコあげと中里の塞の神の知識深める

第3回文化財講習会を開催



講師の加藤会長。



21ページでは第4回文化財講習会についてお知らせしています。

市民の皆さまに文化財への関心を深めていただくため、第3回文化財講習会を12月3日、角館庁舎で開催しました。

西木町文化財保護協会の加藤義規会長を講師に迎え、「仙北市の文化財を知ろう！カンデッコあげと中里の塞の神」と題して講演していただきました。カンデッコ製作をしている様子の映像を交えながら分かりやすく丁寧な語り口に20人の参加者は聞き入っていました。

地域を明るく照らす

西明寺地域運営体がイルミネーションを設置

国道105号沿いの指定障がい福祉サービス事業所「愛仙」に華やかな光が灯っています。

このイルミネーションは西明寺地域運営体の「西明寺地区年末年始を明るくする会」が企画したものです。「少しでもクリスマスを華やかに、新年を気持ちよく迎えられるように」という同会の思いと「地域のために協力して何か一緒にやりたい」という同事業所の思いが合致して設置に至りました。



「から続けたい」と話しました。また、同事業所の久米力理事長は「コロナ禍でさみしい気持ちを、この灯りが地域も気持ちも明るくしてほしい」と話しました。点灯時間は、16時〜0時まで。



夜間に同事業所前を通る際はぜひご覧ください。

夕暮れ時や夜間の事故に注意！

交通安全教室

県内で日没後の交通事故が多発し、死亡事故も発生しています。幸い市内では死亡事故はありませんが、引き続き交通事故防止を図ろうと仙北警察署が夜間における交通安全教室を開催しました。

12月2日には国土交通省秋田河川国道事務所角館国道維持出張所の駐車場で、3日には田沢湖図書館の駐車場で開催した同教室。取材に訪れた2日には地域の高齢者を中心に20人が参加しました。

反射材の効果や色の違いによる見えやすさ、走行車と対向車の上向きライトが交錯した部分にいる人が消えて見える蒸発現象を体験。同署員は、より早く、より多くの情報を手に入れるために、歩行者は反射材と明るい服装、運転者は上向き・下向きライトのこまめな切り替えと速度に注意してほしいと指導しました。運転者の見え方を客観的に体験した参加者は、改めて気を引き締めている様子でした。

「歩行者は自分の存在をいかに早く知らせるか、運転者は歩



歩行者は、自分の存在を知らせるためにたすきの反射材がおすすです。

者をいかに早く見つけるかが大切」と話す同署の東海林悟地域・交通課長。「歩行者と運転者がお互いに注意して、市内の交通事故ゼロを継続したい」と話しました。また、冬道の運転について「急のつく操作、急ハンドル・急ブレーキ・急加速はしない。車間距離を広めに保つこと」に注意してほしいとのこと。

熱心に説明を聞いていた交通安全母の会の草薙良子さんは「上向きライトが重なるところが見えなくなるというのが怖かった。上向きなのに見えないという目の盲点をみんなに教えたい」と話しました。

地域・暮らし・生きがいを創り高めあう

第7回仙北市老人クラブ大会

12月9日、第7回仙北市老人クラブ大会が西木温泉ふれあいプラザクリオンで開催され、市内老人クラブの会員や関係者が参加しました。

第1部の式典では、秋田県および仙北市老人クラブの育成と発展に貢献された8個人5団体を表彰。熊谷勇一郎会長は「新型コロナウイルス感染症に悩まされた1年だった。私たちにはこれまで生きてきた経験と知識があるので、誰かのために知恵を出しあって生きていくとともに、これからも地域の活動に携わってほしい」とあいさつをしました。

第2部は、前仙北市長の門脇光浩さんによる「八郎湖→田沢湖130キロを歩いて〜八郎太郎は何者だったか」と題した講演。「八郎太郎は伝説の人だったのか」と問いかけ、実際に八郎太郎の足跡をたどった記録をスライドショーを用いながら話しました。

大会の最後は、老人クラブの会員によるコーラスや踊りを披露。新型コロナウイルス感染症の影響により練習が2か月という短期間の中、創意工夫された催しに会場は大きな拍手に包まれました。



あいさつする熊谷会長。



八郎太郎について門脇さんが講演しました。



田沢湖地区老人クラブ連合会女性部の皆さんは男はつらいよの踊りを披露しました。

受賞者は次のとおり（敬称略）

- 【育成功労者表彰】 信田幸雄
- 【優良老人クラブ表彰】 伊東弘榮
- 【育成功労者表彰】 佐藤公一
- 【優良老人クラブ表彰】 藤澤富美子
- 【優良老人クラブ表彰】 藤田和也（田沢湖・鶴田貢（角館）・島澤みづ子（西木）
- 【優良老人クラブ】 高野若駒クラブ（田沢湖）・太平クラブ（角館）・小吉老人クラブ（西木）
- 【老人クラブ育成功労者】 千葉重夫（田沢湖）・亀谷孝子（角館）・西宮久子（西木）

この度、大曲税務署より租税教育の推進と租税の役割や納税の義務についての正しい知識の普及に貢献したとして市教育委員会へ感謝状が贈られました。

11月17日に西木庁舎で伝達式が行われ、大西謙次署長から須田教育長に感謝状が手渡されました。評価のポイントとして「仙北市はまち全体で積極的に租税教育に力を入れて印象」と大西署長は話します。また、「税金は、若い世代の皆さんが愛するまちを守る



税金について真剣に話を聞く児童たち。

租税教育の推進を評価 大曲税務署より感謝状

ためにみんなで出し合う会費。みんなで気持ちよく出せるように税金の使い方方を子どもたちに理解してもらうことが大切」と話しました。

仙北市では租税教育の一つとして、毎年小・中学校で税金の役割と使い道を学ぶ租税教室が開かれています。12月16日に白岩小学校で行われた租税教室では、税金がなくなった生活や身近に使われている税金について学び、さらに1億円分の紙幣のレプリカを持つ体験もしました。児童たちは知識をさらに深めた様子でした。



大西署長(右)から須田教育長(左)に感謝状が手渡されました。

地域の安全のために

年末・年始特別警戒出動式

12月10日、年末年始に多発傾向となる各種犯罪の防止へ向けた「年末・年始特別警戒出動式」が仙北警察署で行われました。出動式には、仙北警察署の佐藤正志署長、仙北市防犯協会の橋本左武郎会長など市内の防犯活動関係者が参加しました。

式では仙北市防犯協会白岩支部の菅原秀俊支部長が関係機関と連携して地域安全活動に取り組むことを宣言し、その後関係者はパトカーや青色回転灯装備車で市内を巡回警戒しながら、ワンダーモールタカヤナギ店、グランマート田沢湖店、ファミリーマート仙北西木西明寺店へそれぞれ移動しました。各店舗では関係者が防犯チラシを配布しながら被害防止を呼びかけました。



仙北警察署と仙北市防犯協会が連携して地域安全活動に取り組みます。



年末年始は各種犯罪が増えやすい時期です。被害に遭わないように気をつけましょう。



自立更生者表彰を受賞した武田さん。

令和3年度秋田県身体障害者自立更生等表彰式

11月22日、秋田県庁正庁で行われた「令和3年度秋田県身体障害者自立更生等表彰式」で武田利美さん(角館町上野)が秋田県知事から自立更生者表彰を受賞しました。

武田さんは、サウンドテーブルテニス競技の選手として活躍し、全国障害者スポーツ大会において優秀な成績を収めています。また、マッサージ・針治療院を営む傍ら一般社団法人秋田県視覚障害者福祉協会の会長として、視覚障がい者の社会参加と自立更生に尽力されたとして今回の受賞となりました。

武田利美さんが受賞

令和3年度秋田県身体障害者自立更生等表彰式

角館小学校金管バンド部へ 角館ライオンズクラブが寄付

12月8日、角館ライオンズクラブから角館小学校金管バンド部へ寄付をいただきました。

同クラブは、毎年市内の子どもたちや地域のために役立ててほしいと寄付などの奉仕活動を行っています。この度の寄付は、さいたまスーパーアリーナ(埼玉県)で行われるマーチングバンド全国大会に出場する同小学校の金管バンド部「ドリームハーモニー」の子どもたちを応援したいとの思いからです。

金管バンド部の顧問の高橋猛先生は「いろんな人に応援していただいて、私たちも誰かに見てもらうことでやる気が出てくる。本番でも地域の人や全国のいろんな人に見てもらえることが子どもたちの楽しみになっているところではないかと思う」と話しました。

また、同クラブの花田浩康会長は「去年も見せていただいたような元気はつらつとした演奏ができたらいい成績を出せると思う。とにかく楽しくやってほしい」と出場を控える子どもたちへの思いを話しました。



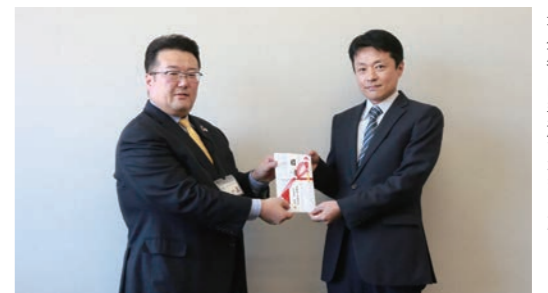
左から角館ライオンズクラブの花田会長、同校の梁田一史校長、高橋先生。

明るいまちに 角館電気有限会社より 防犯灯を寄贈

12月9日、角館電気有限会社(茂木督代表取締役)より市内の防犯対策に役立ててほしいとLED防犯灯10基を寄贈いただきました。

目録を手渡した茂木代表取締役は「コロナ禍で暗いニュースが続いた中、市民の皆さまへ少しでも明るい話題、明るい場所の提供をできればと思っていました」と話します。仙北市のために何かしたいと思っていただけるところに同じ年代の新市長の就任もあり、応援の意味も込めて今回の寄贈に至ったそうです。

設置についても同社が無償で行ってくださいます。今後、市内の要望があった箇所に順次設置される予定です。



茂木代表取締役(右)から田口市長(左)に手渡されました。



見事銀賞に輝いた伊藤さん。

伊藤葉琉さんが銀賞

第37回全日本ECC中学生英語暗誦大会

11月21日に松下IMPホール(大阪府大阪市)で開催された第37回全日本ECC中学生英語暗誦大会に出場した角館中学校2年生の伊藤葉琉さんが銀賞を受賞し、12月3日に教育長に報告に訪れました。

英会話スクールなどを運営するECC外語学院・ECCジュニアが主催の同大会。出場者は全国の各校・各教室の生徒から応募のあった録音データの審査により選出されました。伊藤さんは武家屋敷通り教室の生徒として、中学校2年生の部に出場。いくつかあるテーマの中から「難民の方が世界中の人に難民の生活の現状を伝えるためにビデオゲームを作った」という内容を選んだ伊藤さん。前半は決まった文章、後半は自分の考えを取り入れる構成です。後半に「現在はいろんな人がゲームやアプリを使って社会的問題を解決しているが、例えば環境美化を促すアプリを紹介し、地域の人たちのモチベーションをあげて、もう少しまちをきれいにしたい」との意見を述べました。

4歳から教室に通い始めた伊藤さん。大会に向けて練習した3か月は「文章と文章の間をできるだけあけて速くならないように意識した」とのこと。身振り手振りも「あとからつけると機械的になってしまつので、自分が自然に出せるものを意識した」とも話します。「いっぱい練習を重ねたが、本番はとても緊張した」と話す伊藤さんに「自分で点数をつけるなら？」と聞くと「80点」と答えました。「その時は自分で金賞をとれたと思った。正直悔しい」とすでに来年の出場を目指しています。「発音がかもってしまつところがあるのではっきり言うこと。英検も上の級をとるように頑張りたい」と話しました。